

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

上山市立宮川小学校 教諭 佐藤 正隆

1. 単元名 発見！発信！上山の魅力調査隊！ークアオルトの良さを発信しよう！ー

2. 単元の目標

- クアオルトの良さについての探究的な学習の過程において、これからの上山市のまちづくりに必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、相手に伝えることができる。
(知識・技能)
- 実社会や実生活の中から問いを見いだし、クアオルトを中心とした上山市のまちづくりについて、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析してまとめ、上山市の人に伝えることができる。
(思考・判断・表現)
- 探究的な学習に主体的・協同的に取り組むとともに、クアオルトのよさを生かしながら、積極的に上山市のまちづくりに参画しようとする態度やふるさとに対する愛情を養う。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、上山市のまちづくりについて自分たちで課題を見つけ、その解決策について協同的に学習しながら、上山市の魅力やこれからの上山市のまちづくりについて発信していく単元である。第5学年総合的な学習の時間「宮川地区の良さを発信しよう」の学習の発展的な課題として、宮川地区から上山市内に範囲を広げ、上山市の良さやまちづくりについて調べ、様々な人と触れ合うことを通して、上山市の魅力をも自分たちが発信することの楽しさや、責任感を養うことができる。また、上山のまちづくりについて様々な視点から考える力や収集した情報を整理し、重要な部分を相手に発信する力を養うことができる。

クアオルトとは、ドイツ語で「療養地」を意味する言葉である。上山市では、平成20年から取り組んでおり、運動・栄養・休養の3つの要素を地域資源を活用しながら、楽しく健康づくりができる総合的な健康づくりを推進している。上山市では、上山市民が気軽に参加できるウォーキングメニューから、観光客が楽しく参加できるイベントなどを企画し、案内ガイドの方がついたクアオルトウォーキングを実施している。また、「地元産農産物を活用した体に優しいバランス弁当」をコンセプトに、上山市内の飲食店と連携して開発したクアオルト弁当の販売も行っている。さらに、上山市内の足湯マップなども発信しており、疲れた足をいやす休養場所としてはもちろん、上山市の歴史や温泉街としての情緒に触れることも積極的にPRしている。その成果として、平成30年度のクアオルトに対する市民の意識調査では、77.2パーセントがクアオルトについて認知している。

しかし、現状としては高齢者の参加が多く、市内の人が認知はしているものの、あまり実施していない。児童が調べていく上でもっと様々な人が健康づくりのために取り組んでいく必要性や、様々な視点からPRする方法を考えることで今後の上山市のまちづくりに活かすことができる教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、今までの社会の学習や総合的な学習の時間で、自分たちの地区（宮川地区）の良さとして、果物やそばの栽培が盛んで自然が豊かなこと、蔵王ウッディーファームや原口そば屋で、生産されたものが他の地区にも活かされていること、旧尾形家住宅や横川堰など文化財があり、歴史と伝統が財産として守られていることを学習してきた。学習した宮川地区の良さを学習発表会などで発信し、宮川地区の良さを様々な人たちに伝えてきた。

本学級の児童がイメージする上山市のイメージとして、温泉や宿泊施設があり、昔から多くの観光客が訪れることや、「めんごりあ」などの施設を建設し、子育てがしやすいまちづくりを進めていることをイメージしている児童が多かった。本単元で出てくる「クアオルト」のイメージとしては、健康のために行うもの、自分たちではなく高齢者が行うものといったイメージを強く持っている児童が多かった。

(3) 指導観

本単元の導入として、3・4年生の社会科や総合的な学習の時間で学んできたことを思い出しながら、自分たちが思う上山市の良さを考える。その後、自分の家族や他の学年の児童はどう思っているのかアンケートを実施し、上山市民が思う上山市の良さをとらえ、上山市の魅力を把握することで、児童が感じた良さを上山市がPRしているのか調べる活動につなげていく。

その後、上山市のHPを調べる途中で、上山市がクアオルト事業を推進していることに気付き、行政としてどのような活動をしているか上山市役所と連携し、クアオルト推進室の方へインタビューする活動へとつなげていく。実際にクアオルトを体験したり、インタビューしたりする活動を通して「クアオルトっていい活動だな。」「クアオルトの取り組みをもっといろんな人に伝えたい。」という思いに触れ、自分たちがPRする方法を考えたいという意欲や上山に住んでいる一員としての責任感を高めていく。

PRする方法については、『上山型温泉クアオルト構想』の3つの観点である①健康プロジェクト・②観光プロジェクト・③環境プロジェクトで考えさせる。具体的には、健康プロジェクトでは、クアオルトをガイドすることやこれからのわたしたちの行動指針を考える。観光プロジェクトでは、クアオルト弁当のメニューを考えること、クアオルトの後に利用する温泉ガイドマップを作る。環境プロジェクトでは、クアオルトコースにある植物や動物について調べることを通して、様々な視点から考えを広げることが出来るようにする。

また、本単元では、親子行事の活動で、クアオルトの良さについてまず自分の保護者に伝えることを通して、保護者の方から「やってよかった。」という思いを受け、児童自身が「伝えてよかった。」という達成感を得ることが出来るようにする。次に、保護者にPRしたことを基にそれぞれのグループが調べたことをパンフレットにして上山市内の様々な場所に置き、クアオルトについて市内の人や観光に来た人にPRを行う。この活動を通して、上山市で行ったことを他の市民や観光客にPRして、上山市の魅力を伝えることの達成感や楽しさを味わわせていく。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

【相互性】クアオルトを中心とした上山市のまちづくりについて持続し、クアオルトコースの環境の保全や健康な体作りに対する消費行動が循環していくことが大切だということ。

【責任性】 私たち一人一人が上山市のまちづくりを考えて生活を変えていくことが大切であること。

・本学習で育てたいE S Dの資質・能力

【システムズ・シンキング】 様々な角度から上山市のまちづくりについて考え、その方法について考える能力

【コミュニケーション力】 上山市のまちづくりについて、様々な人の意見や考えに触れ、自分の考えを広げたり、ほかの人にPRしたりする能力

・本学習で変容を促すE S Dの価値観

【幸福感に敏感になる】 上山市の良さや取り組みを他の人に伝えることで、健康な体づくりや上山の産業に携わっている人が喜ぶことに敏感になる。

・達成が期待されるSDGs

3：健康・福祉

11：持続可能な町づくり

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① クアオルトの良さについての探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けている。	① 実社会や実生活の中から問いを見だし、クアオルトを中心とした上山市のまちづくりについて、自分の課題を立て、取り組んでいる。	① クアオルトを中心とした上山市のまちづくりについての学習に主体的・協働的に取り組んでいる。
② クアオルトを中心とした上山市のまちづくりについて自分の考えを形成し、相手に伝えることが出来ている。	② クアオルトについての情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	② クアオルトのよさを生かしながら、積極的に上山市のまちづくりに参画しようとする態度やふるさとに対する愛情を持っている。

5. 単元の指導計画（全18時間）

次	主な学習活動（○）児童の反応（・）	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1 (2)	○上山市の良さについて考える。 ・お年寄りにやさしい。 ・温泉がある。 ・旧尾形家住宅や上山城がある。 ○家族や学校内の人にアンケートを取り、上山市の良さについて自分たちで考える。	・アンケートの項目を焦点化し、その結果を基に、上山市民が上山市の魅力についてどう思っているのか把握させる。 ・アンケートは家族、地区の人、市内の人に街頭アンケートやインタビューで情報を集める。	△ア1 △ウ1 ・ワークシートの記述、発言

	<ul style="list-style-type: none"> ・「クアオルト」について話す人が多かったよ。 ・子育てにも力を入れているんだって。 ・どんな取り組みをしているんだろう？ <p>○上山市の HP を見て、上山市が行っているクアオルトについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① クアオルトの目的・内容・効果 ② 上山市がどのような事業を行っているか ③ クアオルト弁当が販売されている。 ④ 温泉施設などと連携し、休養する場所（温泉・足湯）の場所を知らせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上山市の HP を閲覧し、上山市が今取り組んでいることについて把握させる。 	
<p style="text-align: center;">子どもの捉え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上山の良さについて HP で調べていく中で、上山市の取り組みについて単発的には理解しているが、それを魅力だと考えるに至っていない。 ・アンケートを基に、上山市のよさについての見方が広がり、クアオルトについて実際に体験してその魅力を確かめたいという関心を持っている。(システムズ・シンキング) 			
2 (4)	<p>○クアオルトを体験し、良さを味わう。 (宮生クアの道)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に自然の中を歩くと気持ちいいな。 ・この活動って、お年寄りだけの活動じゃなくて、私たちも健康になるよね。 ・うちの人たちは体験したことないかも。 ・なんでクアオルトの活動を市の人たちが進めているんだろう？ <p>○クアオルト推進室の方にインタビューする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな人たちがクアオルトに参加し 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にクアオルトウォーキングを体験することで、調べたことが実感できるようにするために、上山市役所クアオルト推進室の方と連携し、体験活動やインタビューを行う。 ・インタビューする前に、自分たちで質問に対する予想を立ててインタビューを行わせる。 	<p>△イ 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述

	<p>ていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして上山でクアオルトを進めているのですか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・クアオルト推進室の方の「クアオルトをもっとPRしたい。」という思いに触れる。 	
<p>自分たちの地域にあるクアオルトの良さを市内の人にPRしよう！</p>			
<p>子どもの捉え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動やインタビューを経て、クアオルトの魅力に気付き、クアオルト推進室の方の「もっとクアオルトを広めたい。」という思いに触れる。 ・子どもたちは、調べたり体験したりしたことを自分の身近な人に紹介したいという思いが生まれる。(幸福感に敏感になる) 			
3 (8)	<p>○クアオルトの良さをPRする方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮生クアの道をガイドしたい。 ・クアオルト弁当のメニューを考えたい。 ・温泉マップを作ると便利かも。 <p>○クアオルトの良さを自分の身近な人に伝える。【親子行事：クアオルト体験会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の人と一緒にクアオルトの良さを体験出来てよかった。 ・家の人から「楽しかった。」と言われてよかった。 ・上山市内の人にも伝えたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康プロジェクト、観光プロジェクト、環境プロジェクトに分かれてPRの仕方を考えていく。 ・他の地方（大分県）の取り組みなども紹介しながら、PRの仕方をイメージしやすくする。 ・自分の家族に体験してもらい、調べたことを発信することで、家族が「やってよかった。」という幸福感を得られるようにする。 	<p>△イ1 △ウ2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記事、発言
<p>子どもの捉え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の身近な人に伝えたことで、他の人（上山市民）も健康になってほしいという思いが高まる。(幸福感に敏感になる) ・自分たちの身近な人のクアオルトを体験した感想や意見を基にして、市内の人にもクアオルトの良さをパンフレットを通して、発信したりしたいという意欲が増す。(コミュニケーション力) 			
4 (5)	<p>○クアオルトの良さについて、パンフレットを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮生クアの道をマップにして載せた ・クアオルト弁当のメニューも載せた 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのプロジェクトでページを担当して作成する。 ・文章のほかに図や表、マップなども入れて作成することを伝えることにより、クアオルトの面白さが 	<p>△ア1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの内容

	<p>らよくなるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> クアオルトを体験した感想も乗せると、クアオルトの面白さが伝わるかも。 	<p>伝わるようにする。</p>	
<p>子どもの捉え</p> <ul style="list-style-type: none"> マップ、図や表、クアオルトを体験した人のコメントなどに触れ、様々な視点から上山市民にクアオルトの良さや面白さが伝わるようなパンフレットづくりを各プロジェクトで工夫して行う。(システムズ・シンキング) 作成したパンフレットを市内の様々な場所に置くことで、上山市民の役に立ちたいという意欲が増す。 			
<p>5 (4)</p>	<p>○作成したパンフレットを上山市内の様々な場所（市役所・観光スポットなど）に配付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 足湯の近くにおいてもらうと観光客に見てもらえるね。 クアオルト推進課の人に見てもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの場所に設置してもよいか児童自身でアポイントを取り、設置させてもらう。 	<p>△ア2</p> <ul style="list-style-type: none"> パンフレットの内容
<p>子どもの捉え</p> <ul style="list-style-type: none"> どこに置いたら、多くの人に見てもらえるのか、様々な視点から考える意欲が増す。(システムズ・シンキング) クアオルトについて上山市民に伝えることで、自分たちが上山市のまちづくりに貢献しているという気持ちや、上山のまちづくりについて関心が高まる。(幸福感に敏感になる) 			